



せつ子レポート

2011年3月25日発行

控室 〒320-8501 宇都宮市埜田 1-1-20 県議会 028-623-3740 Fax028-623-3748
事務所〒321-0167 宇都宮市東浦町 21-12 028-658-4302

ホームページ [hppt://nomura-setsuko-jcp.net/](http://nomura-setsuko-jcp.net/) / Eメール s-nomura@gikai.pref.tochigi.jp

県外避難者の住居、教育対策を急げ！

私は22日と23日に、福島県から栃木県に避難されている被災者を訪ねお話を伺いました。
車に乗れるのは四人まで...孫とつらい別れ

22日、宇都宮市の親戚に身を寄せているいわき市のAさんご家族を訪問。Aさんたちは地震発生後三日間、避難所に待避していました。避難解除になり家に戻ると一階と車は水没、二階で一晩過ごしました。すると今度は原発の事故で30km圏内は屋内待避に。Aさん宅は35km圏ですが、街には人も燃料も食料もなく、水を汲みに行くこともできず、やむなく栃木県の親類に迎えに来てもらうことに。ところが車は四人しか乗れず、小学生の孫は、残留を決めた父親と離れられずパニック状態に。「孫を置いて泣き泣き避難した」と涙をこぼしながら話して下さいました。「家族が分かれて生活するのはもう限界」と話しておられました。



写真「いわき市から避難してきたAさん家族から話を聞く」

ガソリンのある限り走り、厚木に...そして上三川へ

23日、上三川町富士山公園の避難所を訪問。いわき市のBさん家族は「妻の母親が津波で亡くなったが、遺体が見つかり火葬できたので踏ん切りがついた」と、県外に避難することに。ガソリンが続くところまで行こうとたどり着いたのが厚木。そこで上三川の知り合いから連絡が入り、避難所があることを教えられ入所しました。「中学3年生の息子の学校がどうなるか心配です。この先、長期避難が必要になるのか、見通しがどうなのか...」と不安そうに話していました。

県外避難者への支援拡充を

22日に県災害対策本部に行き、避難者対策について確認しましたが、「一時避難所を増やすのが精一杯」とのことでした。食事のあるなしなど、一部の避難所で起きていた受け入れ体制の格差は「解消できている」とのことでしたが、まだまだ対応が遅れています。避難生活の中で「二次災害」に陥ることがないように精神的にも身体的にも安定できる住居の提供と子どもたちの教育への対応などを急ぐよう県・市・町に要請していきます。

義援金募金にご協力を！！

街頭での募金活動や野村せつ子事務所にお寄せいただいた義援金は以下の通りです。

- 18日雀宮駅前で 6,407円
- 20日宇都宮市内で 19,429円
- 23日上三川町で 13,800円など
- 23日までに64,863円**

引き続き、ご協力をお願いいたします。

